平成27年度「全国学力・学習状況調査」における
松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。
本校の6年生は単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については配慮しています。

1. 調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・ 身につけておかなければ後の学年等の学 習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用で きるように なっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践 し、評価・ 改善する力

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

松ヶ江北 小学校 「平成27年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

1．教科に関する調査結果の概要

① 学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）結果

		国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科
平成２５年度	本市	60．3	46．3	74．6	56．5	
	全国	62．7	49．4	77．2	58．4	
平成２６年度 （理科：平成24年度）	本市	69．1	52．6	76．2	55．4	59．7
	全国	72．9	55．5	78．1	58．2	60．9
平成２７年度	本市	67．1	62．1	73．3	43．7	57．3
	全国	70	65．4	75．2	45	60．8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な 傾向や特徴など	・昨年度まで以上に、全体的に更に努力を要する状況であるが、無解答はほとんどなく、最後まであきらめずに答えようとする姿勢が見られる。 ・文章の中から必要な情報を読み取るのが苦手な傾向を示している。
	よくできた問題	漢字の読み書きに関する問題。
	努力が必要な問題	文の中における主語を捉えたり、主語と述語との照応関係を捉えたりする問題。

国語B	全体的な 傾向や特徴など	・全体的に非常に努力を要する状況で、学級内の較差も大きい。言語体験や読書体験の充実が喫緊の課題である。 ・書く力を問う問題に誤答・無解答が多く、書く活動の一層の充実を図る必要がある。
	よくできた問題	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題。

算数A	全体的な 傾向や特徴など	・おおむね目標とする平均正答率に達しており、特に「数と計算」や「数量関係」の領域において平均正答率が高くなっている。 ・「量と測定」の領域における平均正答率がかなり低くなっており、特に時刻や角などの問題に対する習熟が必要である。
	よくできた問題	繰り上がりのある2位数の加法、少数や分数の減法の問題。
	努力が必要な問題	日常生活の中で必要となる時刻を求める問題。

算数B	全体的な 傾向や特徴など	・おおむね目標とする平均正答率に達しているが、「量と測定」の領域のみが平均正答率が低い。図形を基にした求積や証明の問題が課題である。 ・記述式の問題で無解答率が高い傾向があるので、思考過程を大切にする取組が必要である。
	よくできた問題	平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを求める問題。
	努力が必要な問題	分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題。

理科	全体的な 傾向や特徴など	・全体的にかなり努力を要する状況で、特に「知識」よりも「活用」に関する問題での課題が大きい。 ・特に「生命」の領域における正答率が低くなっていることから、観察等をより丁寧に行う必要がある。
	よくできた問題	水蒸気の状態説明、星座や雲の動きの観察記録を基にした考察、地面の様子と温度変化の関係考察などの問題。
	努力が必要な問題	結果を見通した実験構想力、グラフを基にした砂糖の析出量を考察する力などをみる問題。

③ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・長文を書くことを難しいと考える児童が半数以上おり、これは全国や本市に比べると20ポイント以上高くなっている。書くことの質と量を高める取組を授業に一層取り入れていく必要がある。
・約40%の児童は自分の考えを説明したり文章に書いたりすることは難しいと考えている。自分の考えを整理して書く活動やそれを基にして発表する機会を授業の中で増やしていく必要がある。
・友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできると答える児童の割合が全国や本市の平均を上回っており、これまでの学び合いの学習の成果が表れている。
・授業で分からないことがあったら半数の児童はその場で教師に尋ねることができているが、友達や家の人に尋ねる児童は少ない。周りの人との学習におけるつながりを広げていかなくてはならない。

２．家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・普段、1日に2時間以上勉強していると答えた児童は半数を越え、これは全国平均の2倍以上にあたる。また、土曜・日曜の学習時間も全国平均より多い。しかし、問題の平均正答率等にはなかなか結び付いておらず、家庭学習の内容や方法などを精査し改善を図っていく必要がある。
・読書時間が全くないか1日10分以内の児童が全体の半数以上を占める。これは、全国平均を大きく上回る状況であり、読書活動の充実が大きな課題である。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビを長時間見ている児童が多いが、短時間にとどめている児童も多く、かなりの個人差が見られる。
・1日にゲームを2時間以上している児童が50%で、これは全国平均よりも20ポイント高い。テレビやゲームに依存している児童が多いので、改善を図らなくてはならない。
・携帯やスマホを１日に2時間以上使っている児童の割合も、全国平均よりも10ポイント以上高い。「ケータイ・スマホ、夜１０時オフ」の取組の徹底が必要である。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組（全校・学年・学級・教科毎の取

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

〇「わかる授業」づくりに努める（担任による日々の授業）
・日々の授業の中で児童の実態を正しく見取り、適正な評価を行う。
・自分の考えをノートに書く時間を確保し、積極的な発言につなげる。
・ノートは学びの財産と捉え、こまめに児童のノートに目を通し、的確な指導を行う。
・理科の学習では、めあて設定から実験観察・考察・まとめまでの流れを大切にして、理科学習への興味・関心を高める。
・図書館利用を含めて読書活動の充実を図り、「言葉の力」を高める。
〇火・水・金の「松北タイム」の時間をさらに充実させる。（全教職員）
・音読ハンドブック「ひまわり」などを活用して音読・輪読・暗唱・視写などの時間を確保する。
・過去問、アシストシートなどを活用したドリル学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

〇宿題のスタンダード化（各担任）
・1・2年生→30分　3・4年生→45分　5・6年生→60分　この時間でできる6・7割の宿題を出す。
・家庭学習ハンドブックの積極的活用を図る。
・家庭学習マイスター賞応募に向けて積極的に啓発等を行い、応募を募る。
〇家庭学習の意義、「ケータイ・スマホ、夜10時オフ運動」や「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の趣旨などを児童・保護者に積極的に発信し、その取組を推奨する。（校長・教頭・教務・各担任）
・テレビの長時間視聴やゲーム等への依存の問題点などを、学校通信・学級通信・懇談会等で発信し、生活リズムの改善への問題提起を行う。
〇冬休み・春休みの宿題に過去問やアシストシート・WEB問題などを活用する。（教務・各担任）
〇小中連携の計算・漢字コンクールの確実な実施。（校長・教頭・教務・各担任）